

写真提供：認定NPO法人IVY

気持ちがいいよね、新校舎！ 目指すは、主体的な学びの場



エルビル県マムザワ地区にあるアラオラ中学高等学校(13～18歳、生徒数536人)、アラオラ第4小学校(6～12歳、生徒数587人)の子どもたち。男女別の環境が適切とされるイスラム教社会の慣習に則り、アラオラ中学高等学校は男女別クラスで学ぶが、教室・教員不足で共学の学校は現状多い



▲エルビル県カスナザン地区にあるアルマーリ小学校の開校時の一場面。華やかな服や民族衣装を着た在校生が式典に参加した



昨年完成したプレハブ校舎の前で微笑む子どもたち。皆、2013年以降のISILの拡大により、イラク北部の故郷から東方のエルビル県へと辿り着いた国内避難民の子です。様々な困難を抱えるなか、読み書き計算の習得を第一歩に貧困の連鎖から抜け出すべく、アラビア語で学習しています。午前は男女別クラスの中学・高等学校、午後は共学の小学校となるこの新校舎、生徒数はどちらも500人をゆうに超えます。

教室や机が破損し、トイレの水が流れないなど、同県内でも特に劣化が目立つ学校施設の改善にまず取り組んだIVYは今、授業の質の向上を目的とする教員研修を行い、教材を配布し、生徒が主体的に学べる環境づくりを目指しています。また同

時に、現地政府やほかのNGOからの支援が届いていない地域に焦点をあてた事業の実施を心がけています。5月から6月にかけての学年末テストの後、イラクの学校は9月末まで長い休みに入ります。子どもたちの多くは家の手伝いや幼い弟妹の世話などをしたり、家の周辺で友だちと遊んだり……。家族と一緒に親戚の家に帰省して、団らの時間を過ごすこともあるようです。

そして10月、いよいよ学校は新学期が始まります。授業が活気づくクラスメイトとのディスカッション、先生が出した問題に回答できたときの自信、休み時間に教室の内外でするおしゃべりや、追いかけてこの楽しさ。校内のあちらこちらにまたかけがえない日常が戻ります。



カンボジア難民キャンプのスタディーツアーへの参加をきっかけに、1991年に設立された山形発の国際協力NGO。『地球規模で考え、足元から行動する』をモットーに、東北並びにイラク、シリア、バングラデシュなど世界9カ国で困難に直面している人々、特に難民、国内避難民、子ども、障がいを持った人々など、より脆弱な人々に対して適切なアプローチを取ることができるよう、たくさんの対話を軸に、現地の状況やニーズをしっかりと把握し対応して事業に取り組んでいる。IVYはコングラントにて、『マンスリーサポーター』を募集しています



認定NPO法人IVY
〒990-2432
山形県山形市荒橋町一丁目17-40
TEL/023-634-9830(平日9:00～18:00)
FAX/023-634-9884
E-mail/link@ivyjapan.org
https://ivyivy.org/index.html